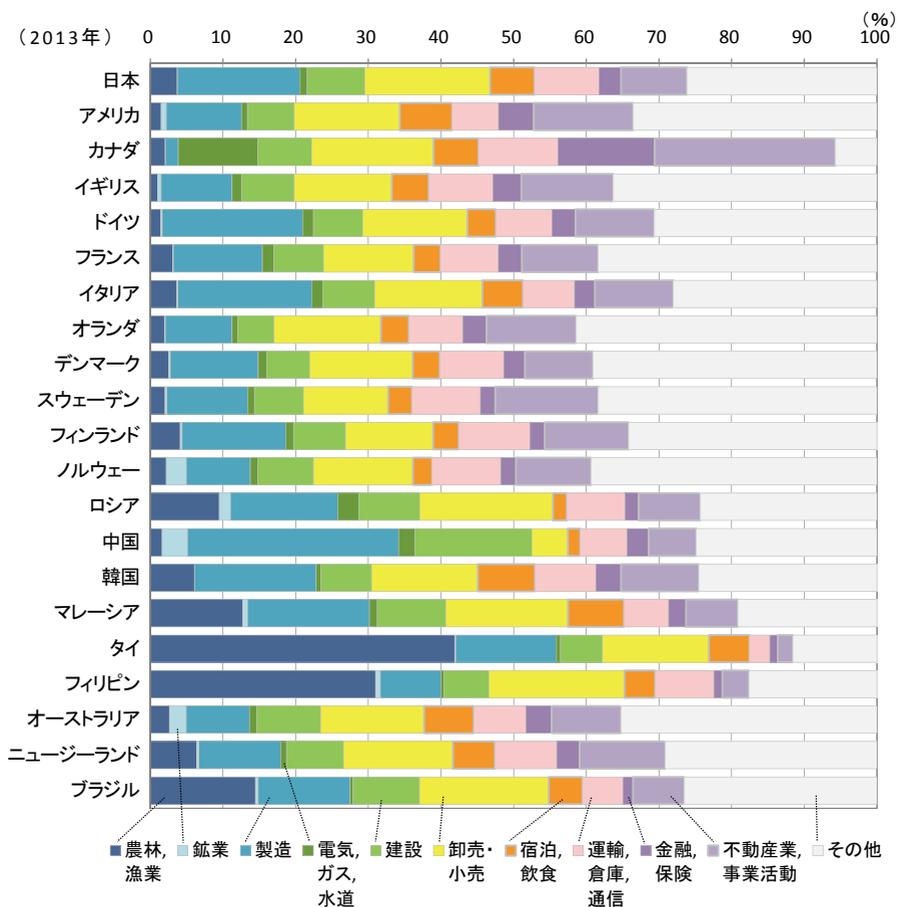


3-1 就業者の産業別構成比（2013年）



▶ グラフの具体的な数値及び資料出所については、「第3-2表 就業者の産業別構成比(2013年)」(p.99)を参照。

経済の発展段階によって産業別の就業者構造の違いを観察することができる。いわゆる先進国とよばれる国々は、産業構造の重心を農林水産業から製造業、製造業からサービス業に移し、それに伴い、就業構造を変化させながら経済発展してきた。実際、日本、欧州、北米、オセアニア諸国の傾向をデータでみると、いわゆる第3次産業である「電気、ガス、水道」「運輸、倉庫、通信」「卸売・小売、宿泊、飲食」「金融、保険、不動産業、事業活動」「その他」部門の割合が約7～8割に及んでいる。一方で、タイ、フィリピンなどは第1次産業である「農林、漁業」の割合が3～4割程度となっている。